

WAKUWAKU通信

2020
Vol.8



「天皇皇后両陛下下接見」



7月21日、赤坂御所檜の間にて、1時間半にわたる天皇皇后両陛下ご接見の機会をいただきました。コロナ渦で、経済的に苦しい状況におかれている子どもたちにどのような影響が出ているか、それに対してフードサポートやオンライン学習支援などの取り組みや、地域のおせっかいの大切さをご説明しました。雅子皇后様は「厳しい状況の中でも工夫して活動が続けていることに敬意を表します」と、天皇陛下は「ピンチをチャンスに変えて、地域のみなさん子どもたち支援する輪を広げているのは、素晴らしいですね。頑張ってください」と励ましのお言葉を頂戴しました。(栗林)



特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

発行日：2020年 9月 発行者：特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 〒171-0014 東京都豊島区池袋三丁目52番21号

WEB：<http://toshimawakuwaku.com/> TEL：090-3519-3745 Mail：info@toshimawakuwaku.com

お食事券の協力：東京豊島ライオンズクラブ、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

8月までに開催した「としまフードサポート」「ランチサポートプロジェクト」について

新型コロナウイルスの影響により、3月に学校が休校となり、4月7日に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されました。そんななか、食についてのサポートをするため、豊島区にある様々な子育て団体・行政・企業が協力し、お米やレトルト食品類などを、皆様に無料で配布する緊急のフードパントリー「フードサポートプロジェクト」を開催しました。8月までに7回実施し、延べ約2200世帯へ食糧支援を実施することが出来ました。



(宅配と直接取りに来ることが可能なパントリーにて実施)



また、5月12日～6月末までの約2か月間の毎週3～5日間、お昼ご飯に困っている家庭へお弁当を配布する「ランチサポートプロジェクト」を行いました。こちらは、区民ひろばの敷地を利用させていただき、さまざまな飲食店や団体からお弁当の提供を受けて実施することが出来ました。提供いただいた方々からは「コロナ禍での社会課題を考えるきっかけとなった」というお言葉をいただきました。



(子どもたちから届いたお礼の手紙)

としまフードサポート&ランチサポートに関わった方の声より

「なかなか大人は、子どもや家庭を把握できない。子どもといつも接している皆さんが、行動を起こし、子どもたちとかかる様々な団体が一致団結できたからこそ、学校休校の非常事態に昼ご飯の食材を提供できたよね。」

「今回の取り組みでは、行政の手が届かない、行政が考えつかない事を、現場で行うことができた。今回のことを契機に、官民いろんな団体が一緒に子どものことを考える、芯の通った何かチームを立ち上げたい。そうしないと、子どものことは守れないと思う」

主催：「TOSHIMA TABLE」(参加団体：NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク、NPO法人ワーカーズコープ、目白聖公会 IKEBUKURO TABLE、放課後寺子屋、ミラクル) 豊島区の子育て支援団体および行政、豊島区民社会福祉協議会、企業などが食を通じて地域の子どもを支えるグループです。協賛：豊島区

助成：「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン フードバンク活動等応援助成」「ゴールドマン・サックス 緊急子ども支援基金」

「WAKUWAKUの近未来に向けて」

8月8日、ワークショップ「WAKUWAKUの近未来に向けて」を開催しました。これは「Panasonic NPO/NGOサポートファンダ for SDGs」の組織基盤強化の助成を受け、WAKUWAKU内部で組織基盤強化に向けてミーティングを重ね、そのひとつの区切りとして皆様からのご意見を頂くためのものです。当日はオンラインとオフラインによる同時開催で、30名以上の方にご参加頂きました。

まず、本組織基盤強化プロジェクトのファシリテーターをしてくださった坂口和隆さん(シャプラニール=市民による海外協力の会代表理事・くらしにツナガル HätWork 共同代表)より、組織診断結果についてご報告。その後、それぞれの理事による各部門での事務局体制強化の案や将来的な事業ビジョンが発表されました。

第二部からはグルーptーク。会場およびオンラインをまたぐ形で、理事やスタッフも参加して小さなグループにわかれ、それぞれで意見交換をおこない、発表をおこないました。

最後は理事長栗林から、これからの WAKUWAKU について決意表明。

会場に来てくださった方々で記念撮影をおこない、改めてこれからの WAKUWAKU について結束を誓い合いました!



「第14回 社会貢献活動見本市」にて「豊島区長賞」を受賞



8月22日、豊島区で活動する社会貢献団体を紹介・表彰する「社会貢献活動見本市」にて、WAKUWAKUが「豊島区長賞」をいただきました。副賞としていただきましたお食事券は、私たちの食料支援プロジェクトで大切に使用させていただきます。

その時の様子はyoutubeにてご覧いただけます。ウェブ検索より「社会貢献活動web見本市 豊島子ども」と検索頂ければ上位に表示されていますのでご覧ください。

「WAKUWAKUすまいサポート」がスタートしました

WAKUWAKUの団体設立以来、「プレーパーク」や「子ども食堂」などでつながった「すまい」についてお困りの方々からのご相談をうかがい、支援を継続してきました。

たとえば、40代のシングルマザーの方からのご相談。子どもが3人おり、狭い劣悪な居住の中で規則正しい家庭生活が不可能となっていました。受験期の子どもの勉強サポートと共に、荒れていた部屋の整理を中心におこない、生活の改善に寄与するなど致しました。

そしてこのたび、住宅を確保することが困難な方へ円滑な入居を促進するための法人資格「居住支援法人」の指定をWAKUWAKUは受託。

団体としてより手厚い「すまい」に関する支援をおこなうため「WAKUWAKUすまいサポート」事業を立ち上げました。

もし豊島区内で「すまい」にお困りの方(子どもを持つ世帯など)がおられましたら、お気軽にご相談をお寄せください。一緒によりよい住居の形を考えていきましょう！(佐々木)

● ご相談は団体ウェブサイトの専用フォームから <https://toshimawakuwaku.com/wakuwakusumaisupport/>

NHK討論会に栗林が出演しました。そこで言いたかったこと

7月26日にNHK日曜討論に出演する機会をいただきました。コロナ渦での暮らし雇用経済というテーマで現場の状況を伝える役割でした。

天皇皇后ご接見以上に緊張してしまい、肝心な「伝えたいこと」が言えませんでした。私が言いたかったことは、コロナで、学校や保育園、地域施設などが機能不全になったとき、弱い人に寄り添えるのは、隣人や子ども食堂のような小さな住民活動やNPOということです。

だから平時から官民連携協働の機会を重ね、弱い立場の人を行政は安心して地域につなぐことができる信頼関係づくりが必要なのではないかということです。

当時の厚労省加藤大臣は私の思いを察したのか「子ども食堂などによる見守りに、2次予算をつけた」と言いました。その予算こそが「支援対象児童等見守り強化事業」で子どもを真ん中に地域を包摂する新たなセーフティーネットづくり事業です。官民が互いの強み尊重し、地域の子どもの地域で見守り育てる豊島区モデル、できたらいいですね!!(栗林)

寄附・賛助会員でのご支援よろしくお願いします。

「ゆうちょ銀行からお振込の場合」

【口座番号】00170-5-728808 【加入者名】豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

「ゆうちょ銀行以外からお振込の場合」

【店名】〇一八(読み ゼロイチハチ) 【店番】018 【預金種目】普通預金 【口座番号】5639629

ご寄附・賛助会員でお振込みされた方は、メーリングリストに加入致します。

ご希望のかたは、QRコードまたは、<http://toshimawakuwaku.com/kihusanzyo/> よりご確認ください。

クレジットカードでのご寄附、賛助会員費のお支払いも可能です。今回のみのご寄附から月単位での継続したものまでご利用いただくことが可能です。

詳細は、WAKUWAKUのサイトまたは、上記QRコードよりご確認ください。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

